

I 研究の概要

第5回目となった綾瀬市第5次教育基本調査は、第1次から第4次までの基本調査と同様に、綾瀬市の小・中学生とその保護者に対して、生活実態や教育に関わる意識などを調査するとともに、第1次教育基本調査（平成10年7月 実施）から5年毎の行ってきた第4次教育基本調査（平成25年7月 実施）までとを比較して、その変化を把握し、今後の教育活動の資料とすることをねらいとした2年間の研究であった。

研究を進めていくにあたり、調査では、現在の子どもたちの生活実態、学習や生活に関する意識を明らかにするとともに、保護者の教育に関連する行動や意識・考え方も探ることとした。調査項目の作成においては、第4次調査の調査項目をもとに5年前・10年前・15年前・20年前との比較という観点から、過去の調査項目をできるだけ今回の調査でも残すことにした。ただし、現在の社会状況にそぐわない項目や選択肢については削除するとともに、必要な項目や選択肢については新たに追加するなど、内容を一部改めた。また、今回の調査よりマークシート方式を採用した。

今回の調査により、子どもたちの多様な生活実態や考え方、保護者の教育や子どもたちに対する期待について、過去の調査と比較することによって、それらの変化を把握することもできた。その結果をもとに、綾瀬市の小・中学生とその保護者の生活実態や教育に関わる意識についてまとめた。

II 調査の概要

1 調査の目的

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測困難な時代となっている。このような中、子どもたちの生活実態や考え方、及び保護者の教育に関連する考え方や意識を把握するとともに、平成10年より5年毎に行われている第1回教育基本調査（平成10年7月実施）から、第4回教育基本調査（平成25年7月実施）までと比較して、その変化を把握し、今後の教育のあり方を検討するための基礎資料を提供することが目的である。また、さらに5年後、10年後の児童・生徒や保護者の生活実態や教育にかかわる意識の変化を把握できるようになればと考えている。

2 調査実施の概要

(1) 調査方法

質問紙法によるアンケート調査（今回の調査よりマークシート方式を採用）

児童・生徒については、学級単位で「調査実施マニュアル」にそって担任が説明しながら実施した。

保護者については、子どもを通して調査票を配布し、その回収は個別に封筒に入れて返却してもらった。

(2) 調査対象

小学校4年～中学校3年の児童・生徒及びその保護者

小学校については、綾瀬市内を3地区（南部地域・中央部地域・北部地域）に分けるとともに学校規模（学年の人数）も考慮に入れ、各学年のバランスがとれるように配慮した。中学校については、各校各学年2クラスで実施した。

(3) 調査人数

①児童・生徒

*欠席児童・生徒については実施せず

*調査票配付人数1,847人 回収率95.7%

単位(人)

小学生	学年	南部地域	中央部地域	北部地域		小計	合計	総計	
	4年	落合(35)	綾瀬(134)	北の台(83)		252	774		1,768
5年	土棚(44)	早園(43)	綾北(69)	寺尾(73)	229				
6年	綾南(85)	綾西(133)	天台(79)		293				
中学生	学年	綾瀬	綾北	城山	北の台	春日台	小計	合計	
	1年	80	64	69	60	71	344	994	
	2年	68	63	70	63	66	330		
	3年	65	67	78	56	54	320		

市内の小学校4年～中学校3年の児童・生徒総数と調査実施児童・生徒数の割合は、次表のようになる。

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
総数(人)	814	780	829	702	777	730	4,632
実施者数(人)	252	229	293	344	330	320	1,768
割合(%)	31.0	29.4	35.3	49.0	42.5	43.8	38.2

②保護者

*調査票配付人数1,847人 回収率83.9%

単位(人)

小学生	学年	南部地域	中央部地域	北部地域		小計	合計	総計	
	4年	落合(33)	綾瀬(116)	北の台(73)		222	696		1,550
5年	土棚(44)	早園(41)	綾北(64)	寺尾(59)	208				
6年	綾南(73)	綾西(117)	天台(76)		266				
中学生	学年	綾瀬	綾北	城山	北の台	春日台	小計	合計	
	1年	68	56	71	55	75	325	854	
	2年	58	31	56	50	64	259		
	3年	47	50	64	54	55	270		

③平成25年度の回答人数

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
児童・生徒数(人)	227	231	314	359	336	345	1,812
保護者数(人)	211	214	289	322	298	275	1,609

④平成20年度の回答人数

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
児童・生徒数(人)	254	234	291	354	337	333	1,803
保護者数(人)	247	227	278	342	313	298	1,705

⑤平成15年度の回答人数

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
児童・生徒数(人)	231	236	239	335	339	311	1,691
保護者数(人)	223	222	221	301	316	269	1,552

⑥平成10年度の回答人数

学年	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	合 計
児童・生徒数(人)	266	260	275	348	338	348	1,835
保護者数 (人)	254	214	262	319	322	318	1,689

(4) 調査期間

児童・生徒 平成30年7月9日(月)～13日(金)

保護者 平成30年7月9日(月)～19日(木)

(5) 調査項目

児 童 ・ 生 徒 編	
プロフィール(学年、性別、家族等) (1) 家庭での生活 ① 起床・就寝 ② 朝食・夕食 ③ 手伝い ④ 家庭学習 ⑤ 家で注意されること ⑥ 家の人との会話 ⑦ 家の人との相互理解 ⑧ 生活時間 (2) 学校での生活 ① 教科の好き嫌い ② 行事の楽しさ ③ 部活動への参加状況と要望(中性的) ④ 教師への要望 (3) 地域での生活 ① 生活体験 ② 地域との関わり ③ 地域での活動 ④ 地域での施設利用 ⑤ 地域への愛着	(4) 友だちとの関わりなど ① 遊びの人数 ② 帰宅後の活動内容 ③ 仲の良い友だち ④ 学習塾 (5) 価値観と将来展望 ① 福祉に関する価値観 ② 環境問題に対する意識 ③ 染髪・ピアス等への価値観 ④ 将来について (6) ストレスと学校への適応 ① いじめ ② ストレス ③ 学校への適応 ④ 給食を残す理由 (7) 携帯電話・スマートフォン ① 所持状況と必要性 ② 持たない理由と使う機能 ③ 家庭内ルールと操作時間 ④トラブル
保 護 者 編	
(1) 家庭における教育 ① 子どもに対する理解 ② 子どもとの会話の内容 ③ しつけの様子 ④ 土曜・日曜日の子どもの過ごし方 ⑤ 進路に対する考え方 ⑥ 進学に対する考え方 ⑦ 学習塾に対する考え方 ⑧ 家庭教育で重視すること (2) 学校教育への満足と要望・期待 ① 学校教育に対する満足度 ② 学校への期待 ③ 教育の分担 ④ 進路指導に対する要望 ⑤ 部活動に対する期待	(3) 地域における活動と愛着 ① 地域との関わり ② 地域への愛着 ③ 子ども地域活動への参加状況 (4) 教育に対する価値観と悩み ① 教育問題に対する考え方 ② 公教育に関する話題 ③ 子ども教育に対する考え方 ④ 子育ての悩みや実感 (5) 携帯電話・スマートフォン ① 子ども所有の有無と理由 ② 重要な機能と家庭のルール ③ フィルタリングサービス プロフィール(年齢、性別、家族等)

3 分析の方法

(1) 分析の方法

調査の分析は、統計ソフト「SPSS」及びフリー統計ソフト「PSPP」を使用した。

(2) 数値の取扱い及び図表について

- ① データクリーニングでは、無回答・不明回答を欠損値として処理した。
- ② 回答率（％）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記してある。そのため、回答率の合計が100％（99.9％または100.1％など）にならないものもある。
- ③ 「Ⅳ 結果と考察」の中のグラフについては、原則として平成30年度の回答率の高い項目順に並べてある。
- ④ 「Ⅲ 結果の概要」及び「Ⅳ 結果と考察」中の「平成30年度の結果」「平成10年度から30年度を通しての変化」において、文中や文末に示される（*）印は、統計的に有意差があることを示している。

